

各学習グループにおいて、グループに属する生徒の特徴を踏まえて「生きる力の五要素」の観点から「作業学習が何をねらった授業なのか」ということを明らかにし、一覧にすることで、高等部の作業学習との違いや学習グループ間のねらいの整合性を検討した。

このように、各学習グループのねらいを焦点化させるプロセスを通して、中学部の作業学習において「育てたい力」や各学習グループの授業のコンセプトを明確化することができ、教師間においても、そのコンセプトを共有することができた(図10参照)。

1学期において、「育てたい力」や授業のコンセプトを明確化した後、事例対象としたCグループ(エコ活動班:知的代替2名・自立活動を主11名)では、2学期に図11に示すように「個と集団のねらいをすり合わせる」手続きを通して、ねらいをより具体化させた。その際に、グループに属する生徒の発達水準が「感覚と運動の高次化」の第I層(初期感覚の世界)と合致すると判断できた。そこで、個々のねらいや本単元における学習活動を「発達系統表」の第I層に示された特徴に照らすことで、ねらいの妥当性を高めるようにした。

このような手続きを経ることにより、「発達を踏まえた根拠のあるねらい」とすることを目指した。また、校内における研究授業においては、個別シート(図12参照)を作成した。「個別シート」には、学習グループに属する生徒一人一人の個別の指導計画の年間目標や日常生活の指導・自立活動などの作業学習に関連する目標、単元や本時の個人目標、学習活動、配慮や手立てを記載した。この「個別のシート」を作成する際に、見直したねらいを参考しながら、生徒の単元や本時の目標を設定するようにした。

**STEP 1 1学期 作業学習において「育てたい力」は?**

**各グループの主担当者による「ねらい」のすり合わせ**

**STEP 2 2学期 各学習グループの「ねらい」の見直し**

**授業担当者による協議**

**感覚と運動の高次化理論**

**「ねらい」の根拠**

**「発達系統表」**

**発達を踏まえた新たな「ねらい」**

**学習集団としてのねらい**

**個々の生徒のねらいや学習活動を照らす**

図11 授業づくりを通した「ねらい」の見直し

**平成29年度 北海道真駒内養護学校 中学部**

**作業学習について**

**コンセプト 校内の役にたちます 中学部**

作業学習を通して、こんな生徒に育ってほしいと思っています！

育てたい力

いろいろな人とかかわる力

役割意識

得意なことを伸ばす

協力して取り組む力

経験や興味を広げる

真駒内を卒業した後も、力強く生きていくために…

中学部としての「作業学習」のねらいを各作業班に応じて焦点化して取り組んでいます！

作業学習のねらい

中学部では、生徒にとっての身近な社会として「校内」を想定し、高等部につなげ、将来的な「一人ひとりの社会参加」を目指し、「作業学習」を設けています。

1 いろいろな作業を経験しながら、自ら進んで取り組めることを進やすことができる。  
2 自分の役割を理解し、最後までやり遂げる姿勢を身に付ける。  
3 周囲の人とコミュニケーションを取りながら、協力して作業することができる。

Aグループ 「協力・報告」を合言葉に、基準を満たす仕事を目指して取り組みます！

Bグループ 作業のやり方を覚え、見通しをもちながら、自分の仕事に集中し、取り組みます！

Cグループ 補助具の工夫や人とのやりとりを通して、得意なことを生かして仕事をします！

中学部での3年間を通じて「木工」「紙工」「エコ活動」の3つの作業種を経験します。

授業参観を通して感じた感想や「作業学習」についてのご意見を担任までお伝えください。これからの「授業づくり」に反映させ、一人ひとりの生徒の確かな成長をつけます！

図10 授業のコンセプトシート(保護者向けに配布)

後期 個別の指導計画	単元・本時の個人目標	学習の流れ(個別プログラム)	配慮・手立て／補助具の工夫
<b>【年間目標】</b>	<b>【単元の目標】</b>	1 始めの挨拶で、MTと一緒に集団の前で発声する。 2 出席確認でMTからネームカードを渡され、その後の順位を見る。 3 実習の2回目で、自分の担当の仕事を選んでおり、写真カードで今日の事を選ぶ。 4 机の上のペットボトルを、瓶で引き寄せ、自分の前にのせる。 5 けん引機でゴミ箱へ運搬まで走る。途中、教師の音楽がけやストップカードの提示で指示に従う。 6 分手で手を動かして色々な形状のスイッチを作業しペットボトルのラベルはりをする。 7 次の作業に移る際、アイコンクトや音楽、スイッチ、発声で伝える。 8 運び返りで、××カードの連続で自己評価をする。 9 終わりの挨拶で声を出す。	【個別の配慮・手立て】 ・各スイッチは、視認してから押すことができるよう距離を調整する。 ・ゴミ箱への運搬では、事前に止まるべき場所を伝え、スイッチから手を離すことができた場合には、賞賛するようにする。
<b>【作業学習】</b>	<b>【自立活動】</b>	目標① ・移動手段や機器操作等、スイッチを使用して活用することができる。 目標② ・教師の指示を受け、ペットボトル書き描きとゴミ捨て場でスムーズに止まり、ゴミ捨ての活動に取り組むことができる。 目標③ ・教諭開拓の少ない教師や他学年の生徒の前でも出来事を出して挨拶や、やり取りをすることができる。 目標④ ・自分のするべきことが分かり、少ない支援でけん引機を使ってゴミ捨ての作業をすることができる。	<b>【補助具の工夫】</b> ・カード類は、つかみやすいように握りを待せるようにする。 ・けん引機のスイッチは、走行中でも押しづらいように棒スイッチを用いる。
<b>【自立活動】</b>	<b>【日生】</b>	目標① ・音楽がけやストップカードの提示により、棒スイッチから手を養育することができる。 目標② ・同じ活動に取り組む生徒を意識して、自分選んで、ラベルはがしの活動に取り組むことができる。 目標③ ・ラベルはがしで、次のペットボトルに移る際、「次に何でいいですか」という教師の聞いかけに対し、声を出して返事することができる。	・けん引機のスイッチは、走行中でも押しづらいように棒スイッチを用いる。

図12 個別シート(作成例)